

◆◆情報化社会と宗教機関◆◆

◆ケネディ大統領が欲したものは、アメリカ合衆国で最も人気の高かった大統領、ジョン・F・ケネディは、ホワイトハウスのオースティン・ワグネル（大統領執務室）に於いて、側近に對して、いつも口やかましく言っていたことが有りませんでした。それは、自分の手元には、ニュースではなく、「情報」を持って来い。ということでした。既に起きてしまった出来事を知らされても、後手後手に廻り、事態を有利に展開する事は出来ません。に「情報」とは、もたらされた「内容」によって、双方の事態を変化させ得る「内容」を持ったもので、この「情報」が、ケネディの考え方だったのです。彼の決断には、常に全合衆国民の安全と、繁栄に對する重責が、求められていたからです。アメリカ合衆国の、情報に對する投資は、CPI等莫大です。

◆アナログからデジタルの時代へ
さて、日本国民も、毎日の情報源はテレビによるところが大きいのですが、今私達はチャンネル数の少ないアナログから、デジタルへと進化する、時代の転換点に居ます。
しかし、チャンネル数だけでは増えても、放送の内容が乏しく、生かしかれていません。今のようにな衆愚放送は電気の無駄ですから、かえってお休みしていたほうがいくらいです。
情報（情報手段）より、コンテンツ（情報内容）次第であることを、証明しています。

◆教育・医療機関
話しは少し変わりますが、親は子供が学齢期に達すると、教育機関に委ねます。二十数年間もです。又、病気をすれば、医療機関に身を委ねます。社会はこのように沢山の機関が、各分野を受けもって、人々の幸福実現のお手伝いをしてるので

とところで、宗教機関は果たして、どのような役目を求められているのでしょうか。
今、お寺と言え、何をイメージするでしょう。「葬式と法事」という言葉が返ってきてそうです。

◆ 宗教機関の使命

ある時、五十代の女性が、内科開業医の「更年期」という診断により、薬を飲んでいました。が、はかばかしくなく、悩んだ末に、菩提寺に相談に行きました。ところが住職に、「うちは生物は扱わないから、善慶寺に行ってくれ」と言われて、来寺したのです。

問訊（もんしん）をして、この方は頭に問題があると思います。九識靈断法で、「この方の頭は大丈夫でしようか？」と、お伺いをたてました。すると「頭に問題がある。急がないと大変な事になる」というお知らせでした。

そこで、盛岡市の脳神経外科医師に電話をして、直ぐ診てもらい、MRI検査をしました。医師は「貴女はとってても良い時期に来ました。脳梗塞があります。ですが、今なら服薬で治ります。」と、いつて処方をしてくれ、次第に快方に向かったのです。

夫は船員であり、子供はもう家を出ています。もし本人が身体不自由になれば、家族にも影響が及びます。自他共に生活のクオリティを保つ事ができたのです。

まさには九識靈断法は、運命のMRIです。何故九識靈断法は人の運命を予知出来るのでしょうか。それは、妙法蓮華經が人（生命）の親だから、子供の事はお見通しなのです。

真の宗教は、この世に誕生した生命が、より安全快適に、好転させる使命を果たせるように、運命を予知し、好転させる神通力を発揮する機関なので、生の人間を扱えない葬式仏教は、既に葬祭業者に仕切られていきます。早く本来の「宗教機関」の体を裁取り戻し、この日本国を日蓮大聖人が願われた、大曼荼羅顕現の理想社会とし、世界に国家の品評会をさせ得る、国造りをしなければなりません。

靈断師と聖徒に託された使命は、以上の事に集約されます。今我が国の惨状は国会から、子供の社会まで目を覆うばかりです。

我が国に於ける「宗教機関」について、良く語り合います。私たちが活用したいと思われ

三浦恵伸